

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。

めざせ、均等待遇。なくそう差別！ ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

20年表彰は誰のためか

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 3758
17年5月30日(火)
・Fax 095-828-1953



五月二十七日、郵政ユニオン長崎は支部の仲間の永年勤続の祝賀会を、駅ビルのお店で開催しました。会には二〇人が参加し、永年勤続者のご苦労をねぎらいました。三〇年の受賞者は向井宏さん、同じく二十年は海江田弘子さんと高口美和子さんでした。おめでとーございませう。

おはようございます。

わけても、高口さんは一九九六年一〇月に短時間職員の第一期生で郵政省に入り、去年の一〇月に、まる二〇年となられましたが、今年四月二〇日の郵政記念日の永年勤続者表彰で、彼女は表彰がありませんでした。

「自分も二〇年だが・・・」と不思議に思つて、上司に尋ねたところ、「短時間職員には永年勤続表彰はない」とのことでした。いくら短時間社員が二年契約更新の社員だとしても、それはひどいだらうといつても、「前例がない」とかいろいろ言い逃れをして、表彰はありませんでした。

しかし、契約社員であつたとしても、職場で共に働く仲間であることには変わりはありません。彼女にとって、これまでの二〇年はなんだったのだからという思いがふつふつとわき、それ以上に、非正規差別というシステムに、人としての生き方、全人格の否定さえ通告された感で、怒りと悔しさは

おさまらず、「ご家族もがっかりだったそうです。

こうした経過があり、支部としても特別表彰的な思いから、支部主催の永年勤続者の祝賀会となりました。会の中のあいさつでも彼女はこれまでの経過をふりかえりつつ、「今回、非正規差別を改めて実感した。今後ともたたかていきたい」と決意を語られました。

郵政ユニオンはこうした差別を許さず、制度の改革を要求し、今後は受賞できるように求めていきます。

、写真の額縁には「不条理の差別と闘い二〇年 道を拓きて非正規復権」祝、二〇年勤続」と書かれています。

大相撲とヘイト

大相撲五月場所で白鵬が一年ぶりに優勝し、稀勢の里の三連覇はなりませんでした。ところで大相撲の世界では「日本人の優勝」とか「日本人横綱」という言葉がさかんに使われますが、帰化した人も「外国人」でおかしい話です。

国技だから日本人だけという論理でしょうが、これだけ外国人の力士がいる中、国粹主義ではやっていけないでしょう。

先場所、大関・照ノ富士が琴奨菊との一番で、立ち合いに変化したことで、「国に帰れ」と野次られたことが、問



題となり、国会でも質問が出ました。

国技館で大相撲を見たことがあります。そこは異様な雰囲気の人種差別的「ヘイト」そのものです。日本人対モンゴル人の取り組みで、日本の力士が勝つと、地鳴りのような大喝采が起きますが、逆ではため息に変わります。

先の「国に帰れ」の野次がサッカーならば、ヘイト発言の認定がなされ、観客個人の入場禁止や、無観客試合、あるいは罰金が科されます。国際的なルールと判定なしには日本のサッカーが、世界から締め出されるからです。

しかし、大相撲は、「問題なし」とされました。日本人、日本人というなか、大関昇進を決めた高安や、小結の御嶽海は、母親がフィリッピンのハーフです。日本人力士びいきの日本人は、彼らも外国人とするのでしょうか。

日本のスポーツ界は外国人の人が活躍している例が多くあります。世界のホームラン王の王選手は台湾系中国人二世だし、四〇〇勝の大記録を持つ金田投手は在日二世、三〇〇〇本安打の張本選手も在日二世、ゴルフの青木も在日です。また大相撲の大鵬も白系ロシア人の出身です。

そして優勝三八回を数える大記録保持者の白鵬はモンゴル人であり、彼は帰化していません。いずれ引退後は親方問題が出るでしょうが、日本人以外は認めないという規則をどうするのでしょうか。

大相撲を「国技だ」、「神技だ」として、いたずらに「日本人の民族的な優位思想」をふりまき、排外的な放送を続けるNHKもふくめ、大相撲協会は考えを改めるべきです。スポーツは記録と結果が評価されるべきで、世襲や血筋、民族などは関係ないからです。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 他支部・分会の役員へ。